

人工歯根（インプラント）治療について

1960年代後半、Branemark を代表とするスウェーデンの研究グループは、多くの基礎的並びに臨床的研究から、インプラントが軟組織を介さず直接骨と接触する、いわゆるオッセオインテグレーションの状態が長期間の成功を期待できるインプラント支持構造であると提唱した。その後、北米や欧州各国で同インプラントの臨床が追試され、それらの報告でもスウェーデンと類似した好成績が得られている。1988年のNIHインプラント・コンセンサス会議においても意見が一致したことから、現在ではインプラントにとって最も好ましい界面構造であると認識されている。

当院では、POI System FINAFIX（日本メディカルマテリアル社 旧京セラ社製）の、インプラントを採用し、下記のように臨床応用を行っております。

北山歯科クリニック